



S.Suzuki

THE NIKKEI SHO

第73回 日経賞 (GII)

1着 2着 3着 4着 5着
本賞 67,000,000円 27,000,000円 17,000,000円 10,000,000円 6,700,000円
付加賞 1,148,000円 328,000円 164,000円



レース映像は
こちらでご覧
いただけます。

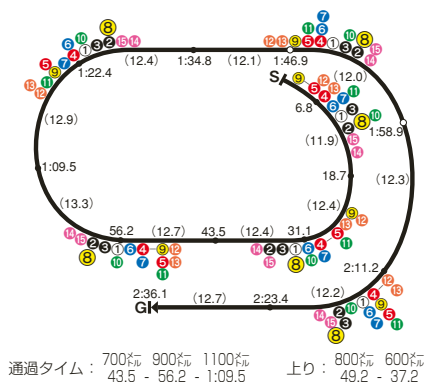
4歳以上、除未出走馬および未勝利馬

負担重量 4歳56⁵/₁₆歳以上57⁵/₁₆、牝馬2⁵/₁₆減、2024.3.23以降G I競走(牝馬限定競走を除く)1着馬2⁵/₁₆増、
牝馬限定G I競走またはG II競走(牝馬限定競走を除く)1着馬1⁵/₁₆増、2024.3.22以前のG I競走(牝馬限定
競走を除く)1着馬1⁵/₁₆増(ただし2歳時の成績を除く)

2025.3.29 中山 曇・稍重 芝2500m (国際) 指定

順	馬番	馬名	性齢	斤量	騎手	タイム (簡差)	コーナー 通過順位	上り (600m)	馬体重 (増減)	単勝 オッズ	調教師	レーティング
1	⑧	マイネルエンペラー	牡 5	57	丹内祐次	2:36.1	3-3-3-2	37.0	488(+2)	7.4②	清水久詞(栗東)	112
2	⑥	チャックネイト	騾 7	57	J.モレイラ	クビ	8-8-8-7	36.5	494(-4)	10.8⑤	堀 宣行(美浦)	111
3	⑦	アーバンシック	牡 4	58	C.ルメール	クビ	9-10-8-7	36.6	514(-2)	1.7①	武井 亮(美浦)	115
4	④	リビアングラス	牡 5	57	松山弘平	クビ	2-2-2-2	37.2	494(-6)	16.2⑥	矢作秀人(栗東)	110
5	⑪	マイネルクリンソー	牡 6	57	菅原明良	アタマ	11-13-11-10	36.4	464(+2)	133.3⑩	手塚貴久(美浦)	
6	⑤	ヴェルミセル	牝 5	55	津村明秀	1/2	11-11-11-10	36.5	458(-8)	37.3⑧	吉村圭司(栗東)	
7	③	マイネルウィルトス	牡 9	57	横山武史	クビ	5-5-5-4	37.1	484(-2)	57.3⑩	宮 徹(栗東)	
8	②	マテンロウレオ	牡 6	57	横山典弘	1/2	3-3-3-4	37.4	478(-2)	7.6③	昆 貴(栗東)	
9	①	アラタ	牡 8	57	大野拓弥	アタマ	6-6-7-7	37.1	482(-4)	108.1⑫	和田勇介(美浦)	
10	⑨	ハヤヤッコ	牡 9	58	吉田 豊	ハナ	11-11-13-10	36.6	482(-10)	24.3⑦	国枝 栄(美浦)	
11	④	バビット	牡 8	57	戸崎圭太	ハナ	1-1-1-1	37.6	472(-4)	53.0⑨	浜田多実雄(栗東)	
12	⑫	シュヴァリエローズ	牡 7	58	北村友一	クビ	14-14-14-14	36.5	466(+4)	9.4④	清水久詞(栗東)	
13	⑩	ホウオウノーサイド	牡 6	57	杉原誠人	1/4	14-14-15-14	36.5	486(+4)	404.0⑮	奥村 武(美浦)	
14	⑬	ブレイヴロッカー	牡 5	57	石橋 脩	ハナ	6-6-5-6	37.5	462(-2)	220.3⑭	本田 優(栗東)	
15	⑭	マキシ	牡 5	57	三浦皇成	アタマ	9-8-8-10	37.1	500(-14)	63.1⑪	辻野泰之(栗東)	

単勝⑦40円(2⁵/₁₆) 複勝①80円(2⁵/₁₆) ⑥250円(5⁵/₁₆) ⑦120円(1⁵/₁₆) 枠連④-⑤510円(1⁵/₁₆)
馬連⑥-⑧3,350円(10⁵/₁₆) ワイド⑥-⑧830円(8⁵/₁₆) ⑦-⑧290円(1⁵/₁₆) ⑥-⑦400円(4⁵/₁₆)
馬単⑥-⑦4,490円(25⁵/₁₆) 3連複⑥-⑦⑧1,620円(2⁵/₁₆) 3連単⑥-⑦⑧20,860円(53⁵/₁₆)



通過タイム : 700m 900m 1100m 上り : 800m 600m
43.5 - 56.2 - 1:09.5 49.2 - 37.2

アラカルト

- ・丹内祐次騎手は日経賞初勝利。JRA重賞は本年3勝目、通算9勝目
- ・清水久詞調教師は日経賞初勝利。JRA重賞は本年初勝利、通算29勝目
- ・ゴールドシップ産駒はJRA重賞通算13勝目
- ・5歳馬の勝利は23年タイトルホルダー以降3年連続、通算22回目
- ・出走取消馬 フォワードアゲン(疾病[右前肢フレグモーン]のため)
- ・マイネルエンペラーは天皇賞(春)(G I)に優先出走できる

マイネルエンペラー *Meiner Emperor*

牡 黒鹿毛 2020.3.13生

北海道新冠町 ビッグレッドファーム生産

馬主・株サラブレッドクラブ・ラフィアン 栗東・清水久詞厩舎
馬名意味・冠名+皇帝

マイネプリテンダー-NZ系 F6-b

ゴールドシップ 芦毛 2009	ステイゴールド 黒鹿毛 1994	サンデーサイレンスUSA
		ゴールドンサッシュ
	ポイントフラッグ 芦毛 1998	メジロマックイーン バストラリズム
マイネテレジア 青毛 2007	ローズインメイUSA 青鹿毛 2000	Devil His Due Tell a Secret
		ブライアンズタイムUSA
	マイネヌーヴェル 黒鹿毛 2000	マイネプリテンダー-NZ

5代までのインブリード：Halo S4×M5 Hail to Reason S5×M5

INTERVIEW

蛸名聡ゼネラルマネージャー
(ビッグレッドファーム)

理想とする馬づくりに通じます

生産馬3頭を出走させることができ、各馬にチャンスがあると思っていました。その中でもマイネルエンペラーは、長い脚を使って最後までよく我慢してくれました。牧場時代は健康優良児で、良い意味であまり目立たない馬でした。キャリアを重ねながら強くなっていく姿は、私たちが理想とする馬づくりに通じます。次の天皇賞(春)も期待しています。

M. Yamada



れで進んだ。アメリカJCCでダノンデサイルを相手に大きな見せ場(0秒1差2着)をつくり、3番人気の支持を集めたマテンロウレオは3番手のインを追走。マイネルエンペラーの丹内祐次騎手は初コンビを組んだ馬と呼吸を合わせつつ、その外に並ぶ。一方、ゆっくりとしたスタートを切ったアーバンシックスもすぐに態勢を整え、中団の外で進出のタイミングを窺った。

2番手のリビアンガラスがバビットの外に迫った2周目の4コーナー。負けじと仕掛けられたマイネルエンペラーは前の2頭に並びかけて直線に向き、坂上で先頭に躍り出る。競り落とされたりリビアンガラスにかわり、馬群を捌いて追い込んだチャックナイト、その外からはアーバンシックスも襲い掛かったが、息の長い末脚で2頭の強襲を抑え込み、勝利を掴み取った。

オークス馬ユーバーレーベンの全第にあたる本馬は、2歳10月の初陣を勝ち上がった後、2勝目を挙げるまでに7戦、3勝クラスの突破にも9戦を要した経歴を持つ。それでも昨年暮れにオープン入りを果たすと、昇級初戦の日経新春杯で3着に食い込み、着実な地力の強化をアピール。この日はハンデ戦の前走より2.5kg重い斤量(57.5kg)を背負いながら、正攻法の運びで実績上位の面々を抑え込み、GI初挑戦となる春の天皇賞に向けて大きく弾みをつけた。

父ゴールドシップ

北海道日高町 出口牧場生産 中央、仏28戦13戦(皐月賞^{G1}、菊花賞^{G1}、有馬記念^{G1}、天皇賞(春)^{G1}、宝塚記念^{G1}2回、阪神大賞典^{GII}3回、神戸新聞杯^{GII}、共同通信杯^{GII})、最優秀3歳牡馬、16年から供用
〔代表産駒〕ユーバーレーベン(後出)、マイネルグロン(後出)、メイショウタバル(神戸新聞杯^{GII}、毎日杯^{GII})、ウインキートス(目黒記念^{GII})、マイネルエンペラー(本馬)、ゴールデンハインド(フローラS^{GII})、ウインマイティ(マーメイドS^{GII})、コガネノソラ(クイーンS^{GII})、フェアエールング(小倉牝馬S^{GII})、ブラックホール(札幌2歳S^{GII})、マイネルラウレア(若駒S・L)

母マイネテレジア

北海道新冠町 ビッグレッドファーム生産 中央3戦1勝
ドクトルギンガ(12 牝父コンデユイトIRE)不出走
マイネルクラフト(13 牝父ステイゴールド)中央37戦3勝(燧ヶ岳特別)、地方1戦0勝
プロヴェルビオ(14 牝父ステイゴールド)中央12戦0勝、地方23戦5勝
マイネルファンロン(15 牝父ステイゴールド)中央46戦5勝(新潟記念^{GIII}、湾岸S、習志野特別、アメリカジョッキークラブC^{GII}2着、函館記念^{GIII}2着、スプリングS^{GII}3着)、障害2戦0勝
バトーブラン(17 牝父ゴールドシップ)中央26戦1勝
ユーバーレーベン(18 牝父ゴールドシップ)中央14戦2勝(オークス^{G1}、札幌2歳S^{GII}2着、阪神ジュベナイルフィリーズ^{G1}3着、アメリカジョッキークラブC^{GII}3着、フローラS^{GII}3着、フラワーC^{GIII}3着)、首1戦0勝
マイネルトルファン(19 牝父オルフェーヴル)中央11戦2勝(富良野特別)④
マイネルエンペラー 本馬(20 牝父ゴールドシップ)中央20戦5勝(日経賞^{GII}、オリオンS、尾張特別、日経新春杯^{GII}3着)獲得総賞金172,582,000円
マイネルレグス(21 牝父スクリーンヒーロー)中央9戦1勝 ④
(23 牝父ダノンバード)
(24 牝父ゴールドシップ)
※11(生後直死)、16、22(不受胎)

祖母マイネヌーヴェル

北海道静内町 ビッグレッドファーム生産 中央3勝(フラワーC^{GII}、ホープフルS^{OP}、中山金杯^{GII}2着、福島牝馬S^{GII}2着、ターコイズS^{OP}3着)、20年死亡
マイネテレジア(07 前出)
マイネルグロン(18 牝父ゴールドシップ)中央0勝、障害6勝(中山大障害J^{G1}、阪神スプリングジャンプJ^{GII})、最優秀障害馬 ④

充実期を迎えた5歳馬が激戦を制す

1番人気の支持に応えられなかった有馬記念(6着)の後、ひと息入れて春に備えていたアーバンシックスがここから始動。単勝1・7倍と圧倒的な支持を集めた日経賞だが、昨年の菊花賞馬は白星発進を飾らず、強襲及ばずの3着に終わる。上位の5頭が0秒1差にひしめいた激戦を制したのは打倒候補の筆頭格と目されていたマイネルエンペラー。充実期を迎えた5歳のゴールドシップ産駒が重賞初制覇を果たし、春の天皇賞戦線の新星に浮上した。

直前まで降り続いた雨の影響を受け、発表(稍重)以上に決った馬場を舞台に争われたレースは、重賞2勝の古豪バビットが先導役を務め、落ち着いた流